

公益社団法人日本技術士会北海道本部 社会活動委員会主催

平成28年講演会のご案内

公益社団法人 日本技術士会 北海道本部
本部長 能登 繁幸

テーマ

『北海道のこれから 少子高齢化・過疎化の荒波を超えて』

講師 元朝日新聞 編集局長

外岡 秀俊 氏

日時：平成28年10月21日(金) 15:00~17:00

会場：ホテル札幌ガーデンパレス 2階

住所 札幌市中央区北1条西6丁目

Tel 011-261-5311

プログラム

15:00 開会挨拶 公益社団法人日本技術士会 北海道本部長 能登 繁幸

15:05 講演 『北海道のこれから
少子高齢化・過疎化の荒波を超えて』
元朝日新聞 編集局長 外岡 秀俊 氏

16:40 質疑・応答

17:00 閉会挨拶 公益社団法人日本技術士会 北海道本部 社会活動委員会
委員長 岩田 徳夫

参加のご案内

参加費：一般市民・学生の方 無料

技術士及び技術士補の方 会員1,000円、会友1,500円、非会員2,000円

その他の方(CPD対象者) 2,000円

CPD無料参加券 使用可

申し込み先：下記へEメールまたはFaxにて、講演会の参加区分、氏名(よみがな)、連絡先等を添えてお申し込みください。

札幌市厚別区厚別中央1条5丁目4-1 Docon新札幌ビル

公益社団法人日本技術士会 北海道本部 事務局(長谷川、岸本)

E-mail: hkd-eng@ipej-hokkaido.jp、FAX: 011-801-1618

申込締切日：平成28年10月14日(金)

講演要旨

私は高校を出てから生まれ育った札幌を離れ、五年前に郷里に戻りました。四十年ぶりのことです。

その間、札幌の人口は百万人から二百万人近くへと倍増しました。活況を呈する故郷は市域が広がり、新しい建物や施設も増えて、光輝いて見えました。しかし、よいことだけではありません。

同じ期間に全道の人口はほぼ横ばいで推移しています。今や三人に一人の道産子は札幌住まい。つまり首都圏以上の人口の一極集中が続いていたのでした。石炭産業や林業の斜陽化がこの傾向をもたらし、札幌冬季五輪に向けて、都市基盤整備に開発予算を重点配分したことも、この流れに拍車を駆けました。

全国で急速な少子高齢化が進むなか、その札幌もすでに人口増のピークを超えました。他地域に先駆けて、今後北海道では高齢化が進むと予測されています。

では、私たちに何ができるのか。郷里に長く住んでいると、その風土はあたりまえになり、私たちは意外にその魅力や個性を見失いがちだと思います。

私は新聞社に勤務中、合わせて十年余りを海外で暮らしました。郷里を離れて初めて気づいた北海道の素晴らしさや可能性などに触れつつ、少子高齢化や過疎化の荒波をどう乗り越えていったらいいのか、みなさんと一緒に考えていきたいと思います。

講師プロフィール

1953年生まれ。北海道札幌市出身。東京大学法学部卒。1977年朝日新聞入社後はニューヨーク特派員、欧州総局長などを経て2006年から07年にかけてゼネラルエディター兼東京編集局長。2011年3月に早期退社。東大在学中に石川啄木をテーマとした小説『北帰行』により文藝賞を受賞。

著書に『地震と社会』（上・下、みすず書房）、『震災と原発 国家の過ち』（朝日新書）、『3・11 複合被災』（岩波新書）など。中原清一郎名義で小説『未だ王化に染はず』（小学館文庫）、『ドラゴン・オプション』（小学館）、『カノン』（河出書房新社）がある。

主な著作：

『北帰行』（1976年、河出書房新社→河出文庫）

『未だ王化に染はず』（1986年、福武書店）中原清一郎名義 小学館文庫、2015

『アメリカの肖像』（1994年、朝日新聞社）

『国連新時代 オリーブと牙』（1994年、ちくま新書）

『地震と社会 「阪神大震災」記』（1997年、みすず書房）

『傍観者からの手紙 from London 2003-2005』（2005年、みすず書房）

『情報のさばき方 新聞記者の実戦ヒント』（2006年、朝日新書）

『アジアへ 傍観者からの手紙 2』（2010年、みすず書房）

『震災と原発 国家の過ち 文学で読み解く「3・11」』（2012年、朝日新書）

『3・11 複合被災』（2012年、岩波新書）

『「伝わる文章」が書ける 作文の技術 名文記者が教える65のコツ』（2012年、朝日新聞出版）

『カノン』（2014年、河出書房新社）- 中原清一郎名義

『ドラゴン・オプション』中原清一郎 小学館、2015